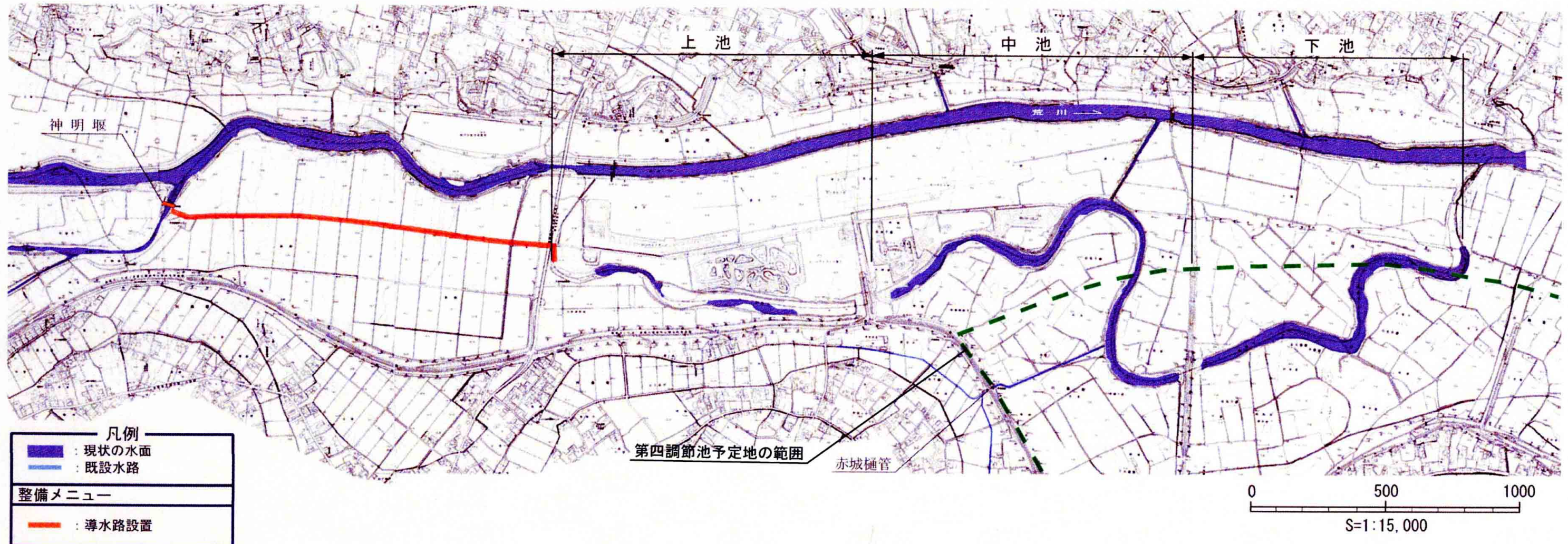


No. 4案 市野川からの導水

平面図



目的	荒川の支川である市野川から供給水を確保する。					
条件	- 市野川の平均流量$2\text{m}^3/\text{s}$の内、取水量を考慮し最大$1\text{m}^3/\text{s}$を導水する。 - 導水路の水深を1mとする。					
工事概要	市野川神明堰から上池までの延長約 1500m を、水深 1m で導水する。					
維持管理	導水路の土砂清掃。					
工事費	導水路掘削工事 ($L=1,500\text{m}$)	細別	単位	数量	単価(円)	金額(千円)
		掘削	m^3	150,000	600	90,000
		諸経費 (直接工事費の50%と仮定)				45,000
		工事費合計				135,000
長所	- 治水上の問題は無い。 - 動力を用いない水供給となる。 - 比較的安定した水供給が可能となる。 - 本川の生態系に与える影響は少ない。					
短所	- 比較的大規模工事となる。 - 家庭雑排水の流入による水質悪化が懸念される。 - 流水環境とした場合(横堤を接続)、得られる流速は$0.3\sim 5\text{cm}/\text{s}$程度と非常に緩流であり、止水環境と変わらない。 - 水路の造成に伴い、現在の耕作地の占用を解除する必要がある。					
備考	旧流路への接続をするためには 1m 程度の旧流路河床の掘削が必要。					

